

「医用画像処理プログラミング入門講座」

- 医用画像処理によく利用されるコードを利用しながら、Javaの入門編を学びます。
- これまでになかった、オブジェクト指向プログラミング 学習体験 (Java) を提供します。

持ち込み
じぶんPCで
学べる

お申込み方法は裏面

- 人工知能に使われるよりも 使う側に立ちたい！
- 今後ゆっくり学んで 仕事にITスキルを生かしたい！
- 知識を得るだけでなく 実践して見せられるようになりたい！！

日程	2018年7月21日(土)9:00~18:00 (休憩12:00~13:00) 2018年7月22日(日)9:00~15:00 (休憩12:00~13:00)
会場	東海大学高輪キャンパス 4号館3階4305教室 〒108-0074 東京都港区高輪2丁目3-23
参加費	医師・企業 19,800円 コメディカル 14,800円 学生 9,800円

主催



Body DWI

Body DWI 研究会

後援

画像情報ワークアウトイニシアチブ
医用画像情報学会
鹿児島県診療放射線技師会

「医用画像処理プログラミング入門講座」

画像情報ワークショップSession2/2018 in Tokyo

当番世話人挨拶

小林 達明 (ビジョナリーイメージングサービス株式会社)



従来から人工知能分野のルールベースエキスパートシステム、機械学習やニューラルネットワーク（深層学習を含む）などを医用画像に応用する研究が活発に行われてきました。このような技術の進歩とともに、医用画像を取り扱う分野では画像から得られる特徴の判別や分類を自動で処理できるコンピュータ支援診断（computer aided diagnosis: CAD）などのコンピュータプログラムが臨床に役立つことが理解されつつあります。

これからは患者やメディカルスタッフが実世界で感じているストレスを軽減するためにこのようなソフトウェアが益々成長していくことが予想されます。CADのような技術を作っていくのはメーカーだけではありません。臨床で働くスタッフもITを習得しさえすれば、メーカーと共に新しい技術開発をすることや、自分で作ったソフトウェアをオープンソースとして公開することで科学・教育コミュニティに貢献することができます。

しかし、これらを作る側あるいは提案する側になることは容易ではありません。画像処理や解析ソフトウェアの実践的なHowToを学ばなければならないことや、既存のソフトウェアにはできない処理をシミュレーションするためのコンピュータプログラミングなどが必要になることがあります。これらはITリテラシーをこれから培おうとしている方、あるいは、ITには強いが実際にはどうやったらいいのか（みんなどうしているのか）がわからない方などにとって、立ち足はかかる見えない壁になっています。この壁は自分を鍛えなければ乗り越えることができません。

画像情報ワークショップイニシアティブはこのような壁を乗り越えていただけるようにテーマごとにワークショップの場を提供させていただく組織です。今回は「医用画像処理プログラミング入門」をテーマにしてワークショップを提供させていただきます。皆さんと一緒にワークショップできること楽しみにしております。

お申込み方法

右のQRコードをスキャン、もしくはBody DWI研究会(<http://bodydwi.jp>)のイベントページからお申し込みください。
(m3.comのシステムを使っているので、会員である必要があります)

